体験活動参加型＋講演会型（小学校）

学 校 名 等	羽島市立福寿小学校
実 施 日 時	平成 30 年 10 月 26 日（金）10 時 45 分～12 時 20 分
会 場	福寿小学校
参 加 人 数	児童 185 人（４，５，６年）　保護者 30 人
学習課題（分野）	認知症サポーター養成講座（社会問題・子どもの生き方）
運営者の願い	委員長が介護施設関係の仕事をする中で、認知症について学びもっと多くの人に知ってほしいと願い、講師を探して、この包括支援センターの職員へとつながり今回の講演となった。

学 習 の 内 容

講師：羽島地域包括支援ｾﾝﾀｰ　主任介護支援専門員：日江井潤一郎氏
介護支援専門員：堀カヨ氏　　看護師：清水洋子氏

＜挨拶＞委員長　今回の学習を大事にしてほしい

・今回の目的は、認知症を正しく知り、認知症の方のサポーターの養成を行い認知症サポータになってもらう事。

・羽島地域包括支援センターの場所、児童館の１階、高齢者や家族の相談が多い。キャラクターとしてロバがいる。急がず一歩一歩着実に歩む。

1講演　DVD による学び

85 歳の 4 分の 1 が認知症になり記憶がなくなる。感情のコントロールが効かない。病気を正しく知ることは付き合うために必要。人が杖、車いすに慣れることが大事。

●認知症の方と接するには(具体的に)

×ごみの分別回収の日を間違える。きつい口調で注意。⇒○優しく声をかける。

×お店で 670 円、お金が出せない。愚痴を言う。⇒○「小銭ありませんか？」一緒に数える。

×子ども同士の会話中、隣のおじいちゃんが来る。家と違う方向に帰ろうとしているのを、そのまま見ている。⇒○一緒に帰ろうと誘う。

2現状　4 年 5 年は学習している。6 年生は本日で認定証オレンジリングを受け取る。保護者も同様。

3体験型グループワーク

①汚したパンツを見つける嫁、知らぬと言う祖父

どう対応したらよいかグループで考える。ステージで演技

○怒らないように、優しく洗濯することを伝える。

②散歩して外に出て行ってしまう。後ろからついて行き叱る。意地でも動かない

○一緒について行き、前から話しかける。

③嫁さんお掃除で忙しい。おじいちゃんに、「洗濯、犬の散歩、花の水やりやって」と言う。おじいちゃん「なんやったな？」

○「一つ一つやってくれる？」と聞き、やってから次の話をする。一度にたくさん言わないで１つずつ言う

④カバンを持って「家に帰る」 嫁に「あんた誰？」

「嫁だ」と言ってもわからない。そのまま行こうとする。

○「夕食ができている」と言ってひとまず落ち着かせる。

⑤財布がない。嫁「ここにあるやろ」、カバン中に嫁が隠した。

○「一緒に探そうか」一つ一つ探して自分で探し触るようにする。否定しない。「一緒に」が大事。

＜感想＞

・認知症の特性がよく分かった。家で子どもたちと接し方について話し合いたいと思いました。

・周りに認知症の人がいても落ち着いて接することができ、やさしく声をかけてあげるように子どもに話せる。

・認知症の本人の機嫌を損ねないように接する方法が分かった。事象を具体的に教えてもらいよく分かった。

●身近な難しい問題を素直に学習できました。

・DVD が分かり易い導入でした。

・児童が積極的に参加しています。講師の３人の進める判断がよく、児童の反応を見ながら会を進めており、児童がやる気になっていくのが分かります。

・グループワークの前の学習が生きており、児童はしっかりとポイントを押さえていました。保護者もそれを観て、学びが進んでいることに安心でき、家でも話題にできると思えました。

・認知症という難しい身近な問題に対して素直な反応で考えられるよい会となりました。

・オレンジリングの存在も講習を受けたサポーターとして意識の継続にも一役かっています。

●楽しい雰囲気

講師の寸劇が、わかりやすく、認知症の家族の特徴をよく捉え、課題を明確に伝えていて、考えやすいですね。

●児童が積極的

グループワークで扱う身近な問題を、子どもも寸劇で示すことができ、保護者の前での行動は、保護者の意識を高めることができたと言えます。